

# 2023年度 大学入学共通テスト 日本史Bの分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 中垣 秀作

## 1 はじめに

共通テストが3年目を迎えた。3年目は、この2年の傾向がいつそう推し進み、高校生の主体的な学びをふまえた場面設定が昨年同様大問6問中5問、会話形式は大問4問と1問増えた。また、昨年は全体の6割強であった何らかの形で思考力・判断力を問う設問は、8割強を占めるにいたった。以下、具体的に本試の分析を試みる。

## 2 分量・構成・出題形式

分量は昨年と同様でマーク数32であった。時代構成も昨年と同様で、前近代と近現代の割合もほぼ6:4であった。出題形式は、文章正誤問題が最も多く、全体の6割を占めた。ついで年代配列問題、短文と語句の組み合わせ問題と続き、昨年は2問であった空欄補充の組み合わせ問題は3問になった。歴史用語の知識だけを問う設問はいつそう減少し、思考力・判断力を問う傾向がさらに強まった。

## 3 共通テストの特徴的傾向

### (1) 多様な資料(史料・図版・統計表など)の利用

共通テストでは、史料・図版・統計表などの資料を利用した設問が実に多く出題されている。**例題1**は、中世の史料の大意(現代語訳)を読み取らせるもので、共通テスト本試全32問中、最も正答率が低かった(約9%)設問である。今年度の日本史Bは昨年度に比べ平均点が約7点上がったが、最も正答率が低かった設問の正答率は、昨年度の約20%から大幅に下がり、一けたを記録した。しかも、その設問は史料そのものの読み取りではなく、現代語訳された「大意」の読み取りであった。誤答は③に集中しており(約74%)、これは永楽通宝の需要を扱ったdを正文と判定できなかったことを示している。史料1には「永楽銭…は取引に使用しなさい」、史料2には「永楽銭…については選別して排除してはなら

### ■例題1 2023年度 共通テスト本試：第3問 問3

問3 下線部⑤に関連して、次の史料1は1500年に室町幕府が京都で発布した撰銭令である。また、後の史料2は1485年に大内氏が山口で発布し、1500年においても有効だった撰銭令である。史料1・2によって分かることに関して述べた後の文a～dについて、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 14

#### 史料1

商人等による撰銭の事について  
近年、自分勝手に撰銭を行っていることは、まったくもってけしからんことである。日本で偽造された私鑄銭については、厳密にこれを選別して排除しなさい。永楽銭・洪武銭・宣徳銭は取引に使用しなさい。  
(『建武以来追加』大意)

#### 史料2

利息付きの貸借や売買の際の銭の事について  
永楽銭・宣徳銭については選別して排除してはならない。さかい銭<sup>(注1)</sup>・洪武銭・うちひらめ<sup>(注2)</sup>の三種類のみを選んで排除しなさい。  
(『大内氏掟書』大意)

(注1) さかい銭：私鑄銭の一種。(注2) うちひらめ：私鑄銭の一種。

- a 使用禁止の対象とされた銭の種類が一致していることから、大内氏は室町幕府の規制に従っていたことが分かる。
- b 使用禁止の対象とされた銭の種類が一致していないことから、大内氏は室町幕府の規制に従ってはいなかったことが分かる。
- c 永楽通宝は京都と山口とともに好んで受け取ってもらえ、市中での需要が高かったことが分かる。
- d 永楽通宝は京都と山口とともに好んで受け取ってもらえず、市中での需要が低かったことが分かる。

① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

ない」とあり、こういう命令が出ているということは、永楽銭が取引に使用されておらず、また、選別・排除の対象であったということの判断を求めた訳なのだが、この、いわば史料の「裏」を読ませて判断させるという作業は、受験生にはかなり難しい要求だったようである。永楽通宝という精銭イメージがある用語だけに、それが先入観となって判断をじゃましたと思われるが、それにしても10人中9人が間違えるという結果は、出題側もさすがに想定外であったと思う。今後、この手の読解が要求されるかは不明であるが、史料読解演習の指導の際に少し留意が必要かもしれない。

**例題2**を取りあげた理由は3点ある。第一は、昨年度も本誌で、今後も傾向が続くと指摘した「歴史知識も必要な史料読解問題」である点、第二は、2番目に正答率

## ■例題2 2023年度 共通テスト本試：第6問 問2

問2 下線部⑥に関連して、その時の修学旅行生の上海での体験記を示した次の史料1の内容に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

27

史料1

### 省 略

(長商創立75周年記念誌編集委員会編『長商卒業生の生活と意見』)

(注1) 支那：当時用いられた中国の呼称。

X 修学旅行生が「国際的繁栄の都市」と称した上海は、安政の五カ国条約の締結よりも前に開港していた。

Y 修学旅行生は、日清戦争の勝利で日本が得た利権の一端を目撃したり、清国の敗北に対する上海市民の反応を体験したりした。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

## ■例題3 2023年度 共通テスト本試：第4問 問2

問2 下線部③に関連して、商人や職人の仲間・組合やそれに関わる政策に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

- Ⅰ 幕府は、輸入生糸を糸割符仲間一括して購入させる制度を始めた。  
Ⅱ 江戸では、問屋仲間の連合体である十組問屋が結成された。  
Ⅲ 幕府は、商人や職人の仲間を株仲間として広く公認したほか、銅座や真鍮座、人參座を設けた。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ  
④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

が低かった(約41%)設問である点、第三は、総じて低い正答率となる設問・解答形式であった点である。第一の点であるが、Xは上海が安政の五カ国条約の締結前に開港していたかどうかを知らないと判断できない。日本史Bの教科書にも注や地図情報としてはアヘン戦争での開港場であることが示されているが、世界史寄りの、あるいは新課程の「歴史総合」でも扱われそうな事項といえよう。第三の点は、これは旧センター試験の時代からのことであるが、受験生は「① X正 Y正」を選ぶことを躊躇(ちゆうちゆう)するようで、2文正誤判定の形式で、①が正解の場合は正答率が下がるという傾向に該当する問題であった。誤答は③に集中しており(約52%)、これは先述のXの判定を間違えたことを示している。やはり、上海開港の時期判断は難度が高かったということになる。

### (2) できごとの因果関係や歴史的意義を問う

例題3は年代配列問題である。この形式は総じて多くの受験生が苦手とする形式といえる。今年度の共通テスト本試では5問(昨年は6問)出題されている。この形式の克服は、高得点を狙ううえで不可欠といえよう。本問を取りあげた理由は2点である。まずは、年代配列問

題の中で最も正答率が低い(約47%)という点、次に共通テストになってからの特徴といえる歴史用語を極力使わずに作問しているという点である。Ⅰ～Ⅲいずれも時期を明確に示す歴史用語が少なく、抽象度が高い分、難度が上がっている。②・③の誤答が多く、十組問屋の結成時期の時期判定が難しかったことを示している。今後こうした歴史用語をできるだけ使わずに時期や因果関係などを考察・判断させようとするタイプの年代配列問題が続くと思われるので、指導の際に注意が必要である。なお、第3問 問5は模式図を利用し、中世経済の流れを問う、新傾向の設問であった。

## 4 対策と展望

### ◆資料問題の演習量の確保

今後さまざまな資料(史料・図版・地図・統計表・グラフ)を利用した出題が予想される。対策としては、とにかく「慣れる」ことが重要である。『図説日本史通覧』の「巻頭特集」はさまざまな資料の読解の方法などをていねいに解説しており、一通り読んでおきたい。

### ◆思考力・判断力養成の前提として「知識」を強化する必要

共通テスト模試などのデータからも知識型の問題の正答率が低い傾向があることがわかっている。本試でも知識型の問題は減少しているとはいえ出題されており、何より思考力・判断力養成の前提としても知識を身につける必要性がある。形式・内容面でも旧センター試験と同じような設問も出題されているので、過去問なども大いに利用して、知識面の強化をはかりたい。

### ◆『歴史総合、日本史探究』について

2022年秋に公表された試作問題では、歴史総合が大問1・配点25点、日本史探究が大問5・配点75点であった。本試がこの通りになるかは不明であるが、試作問題をみる限りは、共通テスト日本史A・Bなどと同様、高校生の主体的な学びをふまえた設定を受けて、図版・グラフ・統計表・文献など諸資料を多用した問題が多く出題されそうである。「歴史総合」については、例えば『明解 歴史総合』の2部の導入『近代化』について考察していこう!」が掲げる「6つのキーワード」などが参考になりそうである(試作問題もこの内、「交通と貿易」と「移民」を取りあげていた)。また、教科書のそこかしこに掲載されている問いに注目しつつ、当面は日本史Aおよび世界史Aの近現代史部分の問題演習などにより教科書の理解を補強し、実戦力を養うことが有用と思われる。